

令和 7 年 9 月市議会定例会一般質問通告全文

9 月 16 日 (火)

★通告順位	6 - 1	大石 和央
★件 名		リニア中央新幹線の現状について

気象庁は今年 6 月から 8 月までの平均気温が平年を 2.36℃上回り、最も暑い夏であったと発表した。県内も同様に暑い日が続き、降雨も少なかった。大井川では取水制限が度々あり、今後は夏の渇水が大変心配される。とりわけリニア中央新幹線工事に伴って水量水質に悪影響があれば、流域 62 万人の生活に大きな支障となる。

静岡県と JR 東海の対話が継続しているが、水資源関連の 6 項目の対話が完了（R 7 年 6 月 2 日 残り対話項目 28 項目中 18 項目）となった。しかし先月 8 月 13 日の大井川利水関係協議会では、10 市町首長から疑問や意見が出された。これまでの県専門部会をはじめ同協議会、10 市町首長と JR 東海との意見交換会や県知事との意見交換会を踏まえて質問する。

1 リニア中央新幹線工事に関する現状と対応

- (1) リニア工事の各工区において、工事の遅れや水枯れ・地盤沈下などの被害が発生しているが、どのように認識されているか。
- (2) リニア工事による発生土の処分、特に要対策土処分についての認識と処分方法への基本的姿勢について伺う。
- (3) 8 月 27 日に鈴木県知事と大井川流域の 8 市 2 町の首長との意見交換が行われ、工事により大井川の水に影響が出た場合の補償について、首長らは概ね賛同したと報じられている。対話がすべて完了していないにもかかわらず、なぜこの時点で補償について進めるのか。

2 地質構造・水資源部会専門部会

- (1) 今年 6 月 2 日に水資源について、JR 東海との対話が完了したというが、これから県内に先進坑が到達する。リスク管理やモニタリングの実効性に不安はないのか。また突発湧水への対応は皆無であり、JR 東海とはさらなる対話が必要ではないか。これらについて市長はどのようにお考えか。
- (2) 先進坑の掘削が県境まで 272m（8 月 31 日現在）である。JR 東海では 60m 手前でいったん止めて、コアボーリングなど地質調査を行なうとしている。前回、高速長尺先進ボーリングで湧水圧試験などが失敗していることから、今回はより詳細な調査に失敗は許されない。大井川利水関係協議会での市長発言もあったことから、あらためてお聞きする。
- (3) 生物多様性について、リスク回避・低減や代償措置、湧水や水質・水温に関しては、生物多様性部会専門部会で議論されているが、地質構造にも大きくかわり関連性があるのではないかと。私たち市民が会議を傍聴・視聴する場合、地質構造の委員からも説明がなされるとわかり易いと思う。合同の専門部会

が望ましいと考えるが、市長の見解を伺う。

3 情報発信と説明責任

- (1) 大井川利水関係協議会が再び公開となり、現状把握ができるようになった。
同じように JR 東海、県知事と 8 市 2 町の首長との意見交換会もオープンにして、流域住民の理解を深めるべきではないか。
- (2) 現状について市民への説明が必要ではないか。少なくとも県の出前講座を活用して現状を知らせることが大事だと考えるが、これから予定しないか。
- (3) 市民団体による 8 市 2 町の首長への公開質問書に回答（8 月 29 日）されているが、見解が同じような文言も見られ、どのように作成されたものか。

(質問方式：一問一答)